連載「プロマネの現場から」

第２２０回　配属ガチャを超えて

― 天風先生に学ぶ、環境を活かす生き方 ―

蒼海憲治（大手 SI 企業・グループ会社・事業部長）

はじめに ― 「配属ガチャ」という言葉

現在、今年の新入社員の研修はグループ会社の新人約 500 名一同がお台場で集中研修を実施しています。先日、関西から参加している 25 名の新人たちに向け、配属希望に先立ち、事業部門の説明会を行いました。その説明会の場所が護国寺にある天風会館でした。事業部の説明をした際、この建物の名前の由来になった、中村天風先生のことを聞いてみたところ、新入社員は誰も知りませんでした。この建物の二階にあるギャラリーには、天風先生の書画・彫刻、愛用の品々、貴重な写真パネル等を展示されており、天風先生の足跡がわかるので、ぜひ研修後に見て帰るよう伝えました。 そこで、今回は、天風先生を知らない方に、天風先生の足跡や人となり、現在の私たちにとって勇気を得、生きるための指針になることを、新人に向けて語ってみたいと思います。

皆さん、合同研修おつかれさまです。

現在、お台場では新入社員が一堂に会し、社会人としての第一歩を踏み出しています。関西から参加している 25 名の皆さんも、多くの刺激を受けながら研修に取り組んでいることと思います。研修も終盤に近づくにつれ、皆さんの関心は自然と「配属」に向いているのではないでしょうか。

最近は SNS などで、「配属ガチャ」という言葉をよく見かけます。希望する部署に配属されれば当たり、厳しい部署なら外れ。尊敬できる上司なら当たり、そうでなければ外れ。まるで人生がガチャで決まるかのような表現です。

確かに、どの部署に配属されるかによって経験できる仕事は違います。

上司や先輩との出会いも異なります。だから不安になる気持ちはよく分かります。しかし、長く仕事を続けてきた立場から言うと、人生を決めるのは配属先ではありません。

同じ部署に配属されても大きく成長する人がいる一方で、不満ばかりを抱えて終わる人もいます。逆に、希望しなかった部署での経験が、その後の人生を大きく開くことも珍しくありません。

重要なのは、「どの環境を与えられたか」ではなく、「与えられた環境にどう向き合うか」なのです。そんなことを考えていた時、先日皆さんに対して行った事業部門説明会のことを思い出しました。会場は護国寺にある「天風会館」でした。

説明会の冒頭で、「この建物の名前になっている中村天風先生を知っていますか」と聞いてみたところ、残念ながら知っている人はいませんでした。
もちろん無理もありません。天風先生は 1968 年に亡くなられており、学校で学ぶ機会もほとんどありません。しかし、私は社会人として歩み始める皆さんにこそ、一度は知ってほしい人物だと思っています。
なぜなら天風先生の生涯と教えは、「環境に振り回される人生」と「環境を活かして成長する人生」の違い、「人生をどう生きるか」という問いへの一つの答えを教えてくれるからです。

１．まるで冒険小説のような人生

天風先生の教えは、机上の空論ではなく、すべて「凄まじい実体験」から導き出されたものです。
天風先生は 1876 年（明治 9 年）、東京に生まれました。

・奔放な若き日と密偵時代（日露戦争）
若くして軍事探偵（密偵）となり、日露戦争の最前線で満州の荒野を駆け巡りました。幾度も死線をくぐり抜け、「人斬り天風」と恐れられるほどの豪胆さを持っていました。

・絶望の淵：不治の病との闘い
帰国後、当時不治の病とされた「奔馬性結核（ほんばせいけっかく）」を発症。死の恐怖に直面する中、世界中の名医を訪ね、欧米での治療も試みましたが回復せず、余命いくばくもない状態に陥ります。

・カイラス山麓での奇跡的な悟り
死を覚悟し、「せめて祖国で死にたい」と帰国の途の 1911 年、日本へ向かう途中のエジプトのアレキサンドリアで、ヨガの聖者カリアッパ師と運命的な出会いを果たします。そのまま導かれるようにヒマラヤ山脈の奥深く（カンチェンジュンガ山麓のゴーク村など）で 2 年半に及ぶ過酷な修行に身を投じました。大自然と一体となる修行の末、病を克服し、「肉体は心によって支配される」という「人生の真理」を悟りました。

・辻説法からの出発
帰国後、一時は実業界で成功を収め銀行頭取などを務めますが、1919 年（大正 8 年）、自身の社会的地位をすべて投げ打ちます。「この真理を人々に伝え、日本を元気にしたい」と、

東京・上野公園で平易な言葉による「辻説法」を開始。これが、のちに多くの要人を惹きつける「心身統一法」の始まりとなりました。

それが後に「心身統一法」と呼ばれる教えです。その教えに影響を受けた人々の顔ぶれは実に豪華です。原敬氏、松下幸之助氏。稲盛和夫氏、王貞治氏、双葉山、宇野千代氏、広岡達朗氏。そして、大谷翔平選手も天風先生の『運命を拓く』を挙げるなど、多くの経営者や政治家、文化人、スポーツ選手たちが、天風先生を人生の師として仰ぎました。

２．なぜ多くのリーダーが惹かれたのか

天風先生の教えは、一言で言えば極めてシンプルです。

「人生は心一つの置きどころ」（『君に成功を贈る』）

という言葉に、その思想は集約されています。

私たちは人生の中で、さまざまな出来事に遭遇します。
希望する部署に配属されることもあれば、そうでないこともあります。
上司に恵まれることもあれば、苦労することもあります。
プロジェクトが順調に進むこともあれば、失敗することもあります。
景気が良い時代もあれば、厳しい時代もあります。

しかし天風先生は言います。
人生を決めるのは出来事そのものではない。
その出来事を、どう受け止めるかである、と。

同じ失敗を経験しても、
「自分は運が悪い」
と考える人もいれば、
「ここから何を学べるだろう」
と考える人もいます。

同じ厳しい上司の下で働いても、
「なぜ自分だけこんな目に遭うのか」
と思う人もいれば、

「この人から学べることは何だろう」
と考える人もいます。

同じ配属先で働いていても、
「希望と違った」
と不満を抱く人もいれば、
「この環境で自分は何を身につけられるだろう」
と考える人もいます。

起きている事実は同じです。
しかし、その後の成長は大きく変わります。
天風先生は、人間の人生を決定づけるのは環境ではなく、その環境に対する心の姿勢だと考えました。

そして、こんな言葉も残しています。

「あなた方の思い方や考え方が、現在あるがごときあなた方にしている。」（『君に成功を贈る』）

今日の自分は、昨日までの考え方の積み重ねです。
そして、十年後の自分は、今日どのような心で仕事に向き合うかによって決まります。
だからこそ、環境を変えようとする前に、自分の心の向きを整えることが大切なのです。
これは決して楽観主義ではありません。
嫌なことを忘れろと言っているわけでもありません。
現実は現実として受け止める。
そのうえで、自分にできる最善の行動を選び続ける。
その姿勢を、天風先生は「積極精神」と呼びました。

さらに、天風先生はこう語っています。

「良い運命の主人公として活きていきたかったら、何をおいてもまず、心を積極的にすること。」（『運命を拓く』）

運命を変える特別な方法があるわけではありません。
まず、自分の心を積極的に保つこと。
そこから人生は少しずつ変わり始めるというのです。

実は、多くの経営者やリーダーが天風先生に惹かれた理由もここにあります。
リーダーという立場になると、自分の思いどおりにならないことばかりです。
市場環境は変えられません。
競争相手も変えられません。
景気も変えられません。
部下の個性も変えられません。
予期せぬトラブルも次々に起こります。
つまり、リーダーとは本質的に「コントロールできない現実」と向き合う仕事なのです。
そのとき必要なのは、不平不満ではありません。
状況を冷静に受け止め、その中で最善を尽くす力です。
だからこそ、松下幸之助氏や稲盛和夫氏をはじめ、多くの経営者が天風先生の教えを学び続けたのでしょう。
私自身、三十年以上にわたりシステム開発の現場で、数多くのプロジェクトマネージャーや組織運営に携わってきました。
その中で感じるのは、優れたリーダーとは、「問題が起きない人」ではないということです。
本当に優れたリーダーは、問題が起きたときに、
「誰の責任か」
ではなく、
「ここからどう前へ進むか」
を考えられる人です。
炎上案件でも、障害対応でも、組織改革でも、この姿勢は変わりません。
逆境を嘆く人と、逆境から学ぶ人。
環境に振り回される人と、環境を活かす人。
その差は最初はわずかに見えるかもしれません。
しかし、その積み重ねは、五年後、十年後、二十年後には驚くほど大きな差となって現れます。
だからこそ、百年以上の時を経た今でも、天風先生の教えは、多くの経営者やリーダーの心を動かし続けているのだと思います。

３．社会人一年目に贈りたい言葉

私が特に好きな言葉をいくつか紹介します。

「信念は人生を動かす羅針盤である」

社会人になると、多くの選択を迫られます。
・何を学ぶのか。
・どのような技術者になるのか。
・どのようなリーダーを目指すのか。
その時に必要なのは、自分なりの軸です。

信念のない船は航海できません。

「新しく深い人生は、常に逆境から始まる」

逆境は嫌なものです。
誰もが避けたいと思います。

しかし振り返れば、人間が最も成長するのは逆境の中です。
私自身も多くのプロジェクトを経験してきましたが、本当に学んだのは順調な案件ではありません。
むしろ炎上案件やトラブル対応の中でこそ、多くのことを学びました。
失敗は人生のマイナスではありません。
未来への投資です。

「絶対に消極的な言葉を使わないこと」

天風先生は、単に前向きな言葉を勧めただけではありません。

「如何なる事があっても、又如何なる事に対しても、かりにも消極的な否定的な言動を夢にも口にするまい。」（『天風誦句集』）

これは、自らに課した戒めでもありました。
さらに、

「言葉には人生を左右する力があるんです。この自覚こそが人生を勝利に導く最良の武器なんですよ。」（『君に成功を贈る』）

とも語っています。

言葉は思考をつくります。

思考は行動をつくります。
行動は人生をつくります。

だからこそ、
「無理だ」
「できない」
「どうせ」
という言葉を口にする前に、
「どうすればできるだろう。」
と自分自身に問い掛けてみてください。
もちろん、現実は簡単ではありません。
しかし、問いが変われば、探す答えも変わります。
その積み重ねが、五年後、十年後の大きな差になって現れるのです。

「今日一日、怒らず、恐れず、悲しまず」

これは天風先生の代表的な言葉です。

「今日一日、怒らず、恐れず、悲しまず、正直、親切、愉快に。」（『天風誦句集』）

人生全部を変えようと思うと、人は気が遠くなります。
しかし、「今日一日だけ」と考えると、不思議と実践できそうな気がしてきます。
今日一日だけ、愚痴を言わない。
今日一日だけ、人に親切にしてみる。
今日一日だけ、目の前の仕事に全力を尽くしてみる。
その一日の積み重ねが、一週間となり、一年となり、やがて人生になります。
私は、この言葉には「継続」の本質があると思っています。

社会人になると、知識や技術を学ぶ機会は数多くあります。
しかし、「どのような心で仕事に向き合うか」を教えてくれる機会は、それほど多くありません。
だからこそ、天風先生の言葉は百年以上経った今でも、多くの経営者やリーダー、スポーツ選手の心を動かし続けているのでしょう。
皆さんも、壁にぶつかったときには、今日紹介した言葉を思い出してみてください。
その言葉が、皆さん自身の人生の羅針盤となり、次の一歩を踏み出す勇気を与えてくれるはずです。

４．生成 AI 時代だからこそ価値が高まるもの

皆さんが社会人として活躍するこれからの時代は、生成 AI が当たり前になる時代です。
知識を調べること。
プログラムを書くこと。
設計書を作成すること。
会議資料をまとめること。
議事録を書くこと。
これまで多くの時間を費やしてきた仕事の一部は、AI が短時間で支援してくれるようになりました。数年前には専門家だけが持っていた知識も、今では誰もが瞬時に手に入れられます。

では、そのような時代に、人間の価値はどこに残るのでしょうか。

私は、「心のあり方」に残ると思います。
天風先生は、次のような言葉を残しています。

「あなた方は心に使われちまうからいけないんですよ。心というものは、生きるために使うもので、使われるためにあるんじゃない。」（『真人生の創造』）

生成 AI は、知識を与えてくれます。
優れたアイデアを提案してくれます。
文章を書き、プログラムを作り、膨大な情報を整理してくれます。

しかし、
「困難な状況でも勇気を持つこと」
「責任を引き受けること」
「失敗から学び続けること」
「仲間を励まし、チームを前向きにすること」
「誰も答えを持たない問題に向き合うこと」
こうしたことは、人間にしかできません。

私はプロジェクトマネージャーという仕事の本質も、ここにあると思っています。
プロジェクトでは、技術だけでは解決できない問題が必ず起こります。

品質の問題。
納期の問題。
お客様との認識の違い。
メンバーの悩みや不安。

生成 AI は、それらに対する選択肢を示してくれるでしょう。
しかし、最後に決断するのは人間です。
困難な状況で責任を引き受けるのも人間です。
そして、「みんなで乗り越えよう」とチームを励ますのも人間です。
AI が進化すればするほど、「知識」そのものの価値は相対的に下がっていきます。

一方で、人を信頼し、人を勇気づけ、人と協力しながら未来を切り拓く力は、ますます価値を増していくでしょう。
天風先生は、人間について、

「正しい真理の上から厳粛に言えば、人間とは、『感情の動物』ではなく、『感情を統御し得る生物』なり。」（『心に成功の炎を』）

と語っています。
感情に振り回されるのではなく、自らの心を整え、自らの意思で行動を選び取ること。
これは、100 年以上前の教えでありながら、生成 AI 時代を生きる私たちにとっても、本質的なメッセージではないでしょうか。

技術は、これからも進歩し続けます。
AI も、今以上に賢くなっていくでしょう。
しかし、人間が人間である限り、「どのような心で仕事に向き合うか」という問いは、決して古くなることはありません。
だからこそ私は、生成 AI 時代になればなるほど、天風先生が説いた「積極精神」の価値は、むしろ高まっていくと考えています。
知識やスキルは AI が支援してくれる時代だからこそ、人間としての在り方が、その人自身の価値を決める時代になるのです。

５．ぜひギャラリーを見て帰ってください

説明会を行った天風会館の二階には、小さなギャラリーがあります。
そこには、天風先生の書画や書簡、愛用品、写真パネルなどが展示されており、その生涯をたどることができます。決して大きな展示施設ではありません。
しかし、その一つひとつには、一人の人間が絶望を乗り越え、多くの人々に希望を与えるようになるまでの歩みが静かに刻まれています。説明会の会場として通り過ぎてしまうには、少しもったいない場所です。
もし時間があれば、ぜひ立ち寄ってみてください。
そこでは、単に歴史上の人物を知るだけではなく、「人はどう生きるべきか」という問いに向き合う時間を持つことができます。

社会人になると、毎日の仕事に追われます。
納期に追われ、品質に悩み、お客様への対応に奔走し、目の前の仕事をこなすことに精一杯になる日もあるでしょう。
だからこそ、ときには立ち止まり、自分は何のために働くのか、どのような人間になりたいのかを考える時間が必要です。

天風先生は、

「人生を、あまりむずかしく考えないほうがよい。むずかしく考えるとわからなくなる。真理は足もとにある。高遠な学理の中にあるのではない。」（『運命を拓く』）

と語っています。

人生を変える答えは、どこか遠くにある特別な知識ではありません。
毎日の仕事に誠実に向き合うこと。
仲間を大切にすること。
困難から逃げないこと。
そして、自分の心を積極的に保つこと。
その積み重ねの中にこそ、人生の真理があるというのでしょう。

さらに、天風先生は、

「現在ただ今を、ちっとも尊く生きてない人がありゃしないか？」（『心に成功の炎を』）

と問い掛けています。

私たちは、つい「配属されたら」「仕事に慣れたら」「昇進したら」「もっと時間ができたら」と、未来ばかりを見てしまいがちです。

しかし、本当に大切なのは「現在ただ今」です。
今日という一日をどう生きるか。
目の前の仕事にどう向き合うか。
隣にいる仲間にどう接するか。
その積み重ねが、未来の自分をつくっていきます。
天風会館のギャラリーは、そんな当たり前でありながら忘れがちなことを、静かに思い出させてくれる場所です。
もし皆さんが仕事で悩み、自信を失い、立ち止まりそうになったときには、もう一度あの場所を訪れてみてください。
展示されている書や写真は変わらなくても、社会人として経験を積んだ皆さんには、きっと違った言葉として心に響くはずです。
人生には何度でも学び直す機会があります。
そして、そのたびに天風先生の教えは、新しい気づきを与えてくれることでしょう。

おわりに ― 配属先は運命を決めない

今の皆さんにとって、最大の関心事は配属先かもしれません。

・どの部署になるのか。
・どんな仕事を担当するのか。
・どんな上司や先輩と出会うのか。

もちろん、それらは決して小さなことではありません。
私自身も長年、多くの新入社員を迎え、育成に携わってきましたが、配属によって経験できる仕事や出会う人が異なることは事実です。

しかし、長く仕事を続けてきた先輩たちの話を聞くと、一つの共通点があります。
それは、
「人生を変えたのは配属先ではなかった。」
ということです。
人生を変えたのは、
困難な仕事との出会いであり、

尊敬できる上司との出会いであり、
厳しい失敗から学んだ経験であり、
逃げずに目の前の課題と向き合った時間でした。

天風先生は、
「人生は心一つの置きどころ」(『君に成功を贈る』)
と言いました。

同じ環境でも、大きく成長する人がいます。
同じ環境でも、不満ばかりを抱えてしまう人もいます。
その違いは、能力や運だけではありません。
環境に対する「心の置きどころ」の違いなのです。

さらに天風先生は、少し厳しいこんな言葉も残しています。

「やれ運命がつまらないの、人生がつまらないのって人は、その考え方がつまらないんです。」(『君に成功を贈る』)

配属先が人生を決めるのではありません。
上司が人生を決めるのでもありません。
皆さん自身が、その環境をどう受け止め、どう活かすか。
その姿勢こそが、未来を切り拓いていきます。
仕事をしていると、自分では変えられないことが数多くあります。
景気は変えられません。
会社の方針も変えられないことがあります。
お客様の事情も、周囲の人の性格も、自分の思いどおりにはなりません。
しかし、自分の心の持ち方だけは、自分で選ぶことができます。

天風先生は、そのことを、

「人生は、心の操縦を完全にすることを、その先決問題として重大視しなければならない。」(『研心抄』)

という言葉で教えています。
社会人になるとは、仕事の知識や技術を身につけることだけではありません。
自分自身の心を育て、自分自身をマネジメントできる人間になることでもあります。

生成 AI が急速に進歩する時代になっても、このことだけは決して変わらないでしょう。
知識や技術は AI が支援してくれる時代になります。
しかし、自ら考え、決断し、責任を引き受け、人を励まし、困難に立ち向かうことは、人間にしかできません。
だからこそ、これからの時代ほど、人間としての在り方が問われるようになるのです。
いつの日か、仕事で壁にぶつかったとき。
思いどおりにならない現実に直面したとき。
あるいは、自分の進む道に迷ったとき。
護国寺の天風会館で聞いたこの話を、少しだけ思い出していただけたら嬉しく思います。

そして、そのときには、天風先生のこの言葉を、自分自身に贈ってみてください。

「今日一日、怒らず、恐れず、悲しまず、正直、親切、愉快に。」（『天風誦句集』）

人生は、一日で変わるものではありません。
しかし、一日一日の積み重ねは、必ず人生を変えていきます。
配属先は運命を決めません。
皆さん自身の姿勢が、皆さんの未来を決めるのです。